

災害時要配慮者訪問調査報告書

～災害時における要配慮者の課題と支援について～

平成30年11月

新 宿 区

はじめに

近年、大規模地震や風水害等の自然災害による甚大な被害が、全国各地で数多く発生しています。また、こうした自然災害のたびに、高齢者や障害者などの配慮を要する方（以下「要配慮者」という。）への安否確認や情報伝達のあり方、また避難所における健康管理など様々な課題が挙げられています。

本調査は、要配慮者ご本人及びご家族などの皆様の協力を得て、平時の生活の状況や災害への備え、災害時の在宅又は避難所生活において配慮する事項などについて、基本的な質問に加え、インタビュー形式より、個別の状況を丁寧に聞き取らせていただきました。

本報告書では、インタビューで聞き取った要配慮者の個々の状況をなるべく多く掲載することとしました。これは、調査の結果、災害時の要配慮者の方が抱える課題は、共通する事項もありますが、まさに千差万別であることが浮き彫りになったためです。また、調査結果を踏まえ、要配慮者ご本人及びご家族の方に必要な備えや支援についてまとめています。

また、本調査の成果の一つとして、「要配慮者災害用セルフプラン（以下「セルフプラン」という。）」のひな形を作成しました。このセルフプランは、在宅生活を継続するために必要な備えや避難所において必要な支援を確実に受けられるように、必要な事項をまとめて作成するものです。「セルフプラン」の作成を通じ、「自分の命は自分で守る」という防災意識の向上と自助の取組を進めていただければと思います。なお、セルフプランのひな形は、更なる精査を加えたうえ、普及啓発に努めてまいります。

今後は、本調査の結果を踏まえ、避難所や二次避難所（福祉避難所）での円滑な受入態勢の強化に向け、福祉避難所運営マニュアルの見直しにも取り組んでまいります。

最後に、本調査の実施にあたっては、要配慮者ご本人及びご家族をはじめ、新宿区民生委員・児童委員協議会及び新宿区障害者団体連絡協議会など、ご協力くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

平成30年11月

新宿区福祉部

目次

I 調査の概要

1 調査目的	3
2 調査対象	3
3 調査方法	4
4 調査期間	4
5 調査状況	4
6 調査項目	7

II 調査結果

II-1 調査結果のポイント	11
II-2 調査結果詳細	17

III 資料

個別事例（概要）の紹介	41
-------------	----

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

災害時における高齢者や障害者などの要配慮者が抱える課題や必要とする支援等について、訪問調査によるデータ収集及び分析を行う。

また、要配慮者が在宅あるいは避難所での生活を継続するために必要な事項等を記載する、「要配慮者災害用セルフプラン」のひな形を策定する際の参考にするとともに、学校避難所や二次避難所（福祉避難所）での受入態勢の充実強化及び災害時における自助・共助の取組の促進を図ることを目的とする。

2 調査対象

新宿区災害時要援護者名簿登録者（約3,000名）を中心に高齢者や障害者など要配慮事項別に、民生委員・児童委員、当事者団体の協力を得て調査対象候補者を選定し、ご本人又はご家族等から調査協力に承諾をいただいた方。

なお、新宿区災害時要援護者名簿登録者は、以下に該当する方で災害時の避難等に支援を必要とする方を対象としている。

【登録要件】

- ア 75歳以上の方のみの世帯の方（75歳以上の一人暮らしの方（日中一人である方を含む。）又は世帯員全員が75歳以上の方）
- イ 要介護3以上の方
- ウ 認知症の症状がある方
- エ 障害のある方
- オ 難病等により特別な医療ケアを受けている方
- カ その他災害時の避難等に支援を必要とする方

3 調査方法

アンケートなど定量的な分析ではなく、より詳細な実態把握を目的として、個人単位又はグループ単位でのインタビュー形式による訪問調査を実施した。

4 調査期間

平成29年9月～平成30年7月

5 調査状況

(1) 調査実績数

総数	本人	本人及び家族 ・支援者	家族 ・支援者
80人	49人	14人	17人

※原則、要配慮者本人からの調査とし、本人が回答できない場合は、家族等の支援者の協力により調査を実施した。

(2) 性別・年代別 (人)

	全体	男性	女性
～20歳代	12	7	5
30歳代	5	3	2
40歳代	16	10	6
50歳代	4	2	2
60歳代	7	5	2
70歳代	16	8	8
80歳代	15	7	8
90歳代	5	2	3
総数	80	44	36

※最年少は10歳、最高齢は99歳。

(3) 世帯構成別・年代別 (人)

	全 体	単 身 世 帯	そ の 他 世 帯
～20歳代	12	0	12
30歳代	5	1	4
40歳代	16	8	8
50歳代	4	3	1
60歳代	7	2	5
70歳代	16	6	10
80歳代	15	7	8
90歳代	5	3	2
総 数	80	30	50

※その他世帯は、家族と同居している者、及びグループホームに入居する者を含む。

(4) 世帯構成別・日常生活支援者の有無 (人)

	全 体	単 身 世 帯	そ の 他 世 帯
日常生活支援者あり	74	24	50
日常生活支援者なし	6	6	0
総 数	80	30	50

※日常生活支援者とは、同居者、ヘルパー、施設職員等で、生活介助、相談等の日常的な支援を行う者とする。

(5) 居住地域別 (人)

総数	四谷	笹筥町	榎町	若松町	大久保	戸塚	落合第一	落合第二	柏木	角筥
80	7	5	14	17	4	9	9	5	8	2

(6) 要支援・要介護度別 (人)

総数	要支援1	要支援2	※その他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
23	5	1	1	5	4	3	1	3

※「その他」は、基本チェックリストの結果により、生活機能の低下が確認された65歳以上（事業対象者）である。

(7) 障害種別（※重複する障害あり） (人)

総数	身体障害	知的障害	精神障害
71	37	15	19

(8) 身体障害の内訳 (※重複する障害あり) (人)

総数	肢体不自由	聴覚障害	視覚障害	音声・言語障害	内部障害
42	23	4	7	4	4

(9) その他 (※重複する配慮事項あり) (人)

車いす利用	認知症	高次脳機能障害	難病
23	4	2	10

【報告書利用上の留意点】

- ◆ (7) から (9) のデータについては、属性毎に重複する場合があるため、延べ人数を示している。
- ◆ (7) のデータは、主に手帳（身体障害＝身体障害者手帳、知的障害＝愛の手帳、精神障害＝精神障害者保健福祉手帳）の有無による。
- ◆ 年齢、要介護度、内容などは、すべてインタビュー当時のデータである。

6 調査項目

※調査対象者の状況に応じ、インタビュー調査を行っているため、必ずしも全項目は調査していない。

(1) 基本情報

①氏名 ②年齢 ③居住地区 ④同居家族 ⑤住まいの状況

(2) 本人の状況

①心身の状況 ②通院・治療の状況 ③身体障害者手帳等の有無 ④福祉サービスの利用状況 ⑤階段の昇降 ⑥屋外の移動 ⑦意思の伝達・コミュニケーション ⑧日常生活に必要な医療処置や治療 ⑨身の回りの支援内容と支援者 ⑩外出の頻度と課題

(3) 災害への備え・いのちを守るための行動

①東日本大震災の際の印象 ②災害時の不安内容 ③災害時に避難所に行くか、自宅にとどまるか

④災害時、自宅で安全及び危険と思われる場所と理由 ⑤災害時の玄関以外の出口 ⑥ライフライン（電気・ガス・水道）が止まった場合の弊害と事前対策 ⑦災害に備えた工夫 ⑧災害時に備えた家族との連絡方法・集合場所の取り決め ⑨災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の「災害用伝言版サービス」の認知 ⑩新宿区災害時要援護者名簿の認知 ⑪名簿登録の有無 ⑫名簿登録しない理由 ⑬家具転倒防止器具取付け事業の利用 ⑭災害時用の備蓄の有無 ⑮備蓄の内容と量 ⑯自宅避難可能日数の見込み ⑰日常生活に不可欠な物品 ⑱災害用持出品の準備

（４）生活継続のための方策（在宅生活）

①普段の情報の収集方法 ②災害時の連絡先と方法 ③緊急時や災害時の助けを求める方法 ④地域活動の参加状況 ⑤防災訓練の参加状況 ⑥防災訓練に参加しない理由 ⑦居住地区の指定避難所（避難場所）の認知 ⑧避難所までの移動方法と支援者 ⑨災害時の支援者の有無 ⑩災害時での移動の留意点

（５）生活継続のための方策（避難所生活）

①一般の避難所で生活の可能性 ②避難所での生活に必要なもの ③食事、トイレ、風呂、寝具、移動などの配慮や支援内容 ④言葉以外の意思の伝達方法 ⑤環境変化による影響 ⑥障害特性などに応じた配慮や支援内容 ⑦福祉避難所の認知 ⑧福祉避難所（避難所）への要望 ⑨自由意見

Ⅱ 調査結果

本調査の結果分析では、多岐にわたる調査項目について、4つの視点から分析した「Ⅱ-1 調査結果のポイント」と、主な調査項目を17項目に分析した「Ⅱ-2 調査結果詳細」の2種類にまとめた。

Ⅱ-1 調査結果のポイント

【4つの視点と考察】

- 1 外出先での被災について
 - 2 災害に対する意識について
 - 3 自宅での備えについて
 - 4 避難所について
- ◆ 考察・今後の取組について

※資料の見方

【例】 ■平日は、・・・外出している。(項目①)

調査結果詳細中の項目番号①を示す

II 調査結果

II-1 調査結果のポイント

ポイント1 外出先での被災について

要配慮者も外出する機会が多く、外出時の災害情報の収集・伝達などの備えが課題。

- 平日は、通院や通所等の理由で多くの要配慮者は外出している。 (項目①)

要配慮者の外出先や外出の頻度を聞いたところ、病院、施設、散歩など日常的に外出しており、発災時には自宅だけではなく、移動中や外出先の可能性も高いことが分かった。
- 多くの要配慮者が日常的に移動、情報収集、障害・パニック症状の理解などに関して不安を抱えている。 (項目②)

 - ・移動について：段差等での転倒の危険性、点字ブロック上に置かれた障害物、坂道など車いす利用の限界など
 - ・情報収集について：電話が使えない（聴覚障害者）、呼びかけ・車内放送が聞こえない、周りの状況が見えづらい
 - ・障害・パニック症状の理解について：意思表示・意思疎通が苦手、緊張しやすい、パニック症状
- 災害時の連絡方法、集合場所などを具体的に決めている人は少ないが、緊急連絡先のメモを作成していたり、スマートフォンを利用した連絡手段を備えている人もいる。 (項目⑦)
- 携帯電話や健康保険証、各障害者手帳を携帯している人は多い。 (項目⑩)

健康保険証や免許証、携帯電話を持ち歩く人は多い。知的障害者の保護者の中には、紛失の恐れなどの理由からヘルプカードを利用させていないという意見もあった。
- 情報収集にテレビを利用している人は多い。スマートフォンを所持する高齢者は、情報ツールではなく、連絡ツールとして利用している。 (項目⑪)

ポイント2 災害に対する意識について

災害に対する要配慮者の不安は、家屋の倒壊や火災、避難方法、避難生活、医療面など、多種多様である。

■避難の方法、避難所、医療に関する対応など要配慮者は様々な不安を抱えている。
(項目③)

実際に災害が発生したらどのようなことが不安か、東日本大震災等の経験から想像できることについて聞いたところ、避難の方法や避難所生活、人工透析や服薬などの必要な医療の確保に関すること、また、知的障害者の方のパニック症状の可能性など様々な不安を抱えていることが分かった。

■発災後、自宅が無事である場合でも「避難所に行く」と答えた人が2割強だった。
(項目④)

発災後に、自宅が無事である場合に自宅にとどまるか、避難所に行くかを聞いたところ、避難所に行くと答えた人は2割強、行かないと答えた人は5割台半ばを超えた。「避難所に行く」では、在宅生活での不安をあげる意見がある一方で、「行かない」では、避難所の環境に不安を感じる意見が多く聞かれた。

ポイント3 自宅での備えについて

災害への日ごろの備えに、多くの要配慮者が取り組んでいる。一方、ライフラインが停止した際に必要な備蓄への取組や支援の充実が課題である。

■電気・ガス・水道の3つのライフラインのうち、エレベーターでの移動ができなくなるなど停電時の影響が最も大きい。
(項目⑤)

■家具の転倒防止のため、家具転倒防止器具の取付けに限らず、各家庭では対策を実施している。
(項目⑥)

新宿区の家具転倒防止器具取付け事業の利用について聞いたところ、事業の利用にとどまらず、リフォームで家具を作り付けにする、背の高い家具を置かないなど、様々な家具転倒防止の対策を実施していることが分かった。

■高齢者を中心に薬など自分に必要なものを持出品としている人は多い。一方で、発災後も自宅にとどまり続ける意向の人には持出品を準備しない人もいた。(項目⑨)

ポイント4 避難所について

避難所への移動に様々な課題があることに加え、避難所における必要な配慮事項も多岐にわたる。

■自宅の近くの避難所を知っている人は6割強だった。 (項目⑫)

避難所を知っている人が6割強、知らない人は4割弱だった。なお、一時集合場所を避難所であると認識していた人、以前通っていた小学校に行く方が安心するという人もいた。

■地域の防災訓練に1回でも参加したことがあるという人は3割弱、参加したことがない人は7割強だった。 (項目⑬)

参加したことがない人には、防災訓練が実施されていることを知らない、という意見が多かったが、誘われれば参加したいという人、迷惑がかかるから参加しないという人など、様々だった。

■避難所まで移動するには様々な困難な問題がある。特に、車いす利用者や重症心身障害者は、単独での移動は難しい。 (項目⑭)

避難所が坂の上にある、要配慮者が家族の中に複数いる、散乱したガラスの破片などにより車いすがパンクするなど、移動については様々な困難な問題があることが分かった。

■配慮が必要なことは個々に異なり、様々である。特に、就寝時の環境及びコミュニケーションの方法に関することが多かった。 (項目⑮)

■福祉避難所の認知度は施設を利用する障害者には高かった。 (項目⑯)

福祉避難所という名称を知っている人は7割強だった。一方、障害者のうち、施設利用者は、施設での訓練に参加している経験から、発災後の取るべき避難行動を理解していることが分かった。

考 察

【外出先での被災】

外出時にも被災する可能性は高く、要配慮者自身が被災に備える必要がある。また調査の結果、多くの要配慮者が日常的に移動、情報収集、障害・パニック症状の理解に関して不安を抱いていることが分かった。これらは、外出先だけの課題に留まらず、在宅生活の継続や避難所生活などにおいても、十分に配慮し、支援を行うことが重要である。このため、日ごろの備えとして、災害用伝言ダイヤルやSNSなど家族や支援者との連絡手段や集合場所を決めておくことは安心につながる。また、ヘルプカードを携帯するなど、周囲の人に本人の状況を伝える準備をすることも重要といえる。

また、在宅においても、例えばマンション上層階に居住する高齢者の場合、ライフラインである電気供給がなくなりエレベーターが停止すると、在宅生活の継続に大きな影響が生じるため、日ごろから十分な体制を構築しておく必要がある。

【災害に対する意識】

要配慮者の不安は多種多様であり、また自宅が無事でも避難所に行くと考えている人がいた。災害に対する正しい知識や日ごろの備えなど自助の取組を周知啓発するとともに、自宅での生活が継続できるよう、共助・公助による支援が重要である。

【自宅での備え】

発災後も自宅で生活を継続するために、ある程度必要な備えができていないものの、ライフラインが停止した際に、必要なガスコンロ、簡易トイレなどの備蓄を進める課題がある。また、要配慮者は、電力が停止した場合の影響や支障が大きく、共助・公助による支援が重要となる。

【避難所について】

避難所への移動には、様々な問題があり、要配慮者一人での移動は困難な人も多い。

また、要配慮の抱える事情も千差万別であり、避難所及び福祉避難所において、より配慮した対応が求められる。

今後の取組について

災害は、いつ、どこで発生するか分からないということを、多くの方が認識されていました。

このため、自宅でも外出先でも、どこで災害が起きても対応できるよう、普段から考えられることはすべて準備し、自分でできること、周りの方にもお願いすることも明確にしておくことが、特に要配慮者には重要となります。

区では、要配慮者の方が自らのこうした「備え」を書き出すことで、災害の備えの一助となるよう、「要配慮者災害用セルフプラン」のひな形を作成し、このプラン作成の普及啓発に取り組んでいきます。

Ⅱ-2 調査結果詳細

【17調査項目】

- ①週に何回くらい、どこに外出しますか
- ②外出の際、困ることや気になることは何ですか
- ③災害のときに不安なことは何ですか
- ④災害が発生したら避難所に行きますか
- ⑤電気・ガス・水道が止まった場合に困ることは何ですか
- ⑥家具に転倒防止等の安全対策をしていますか
- ⑦災害時の連絡先や集合場所を決めていますか
- ⑧食糧等の生活物資を備蓄していますか
- ⑨非常用の持出品を準備していますか
- ⑩普段必ず持ち歩くものは何ですか
- ⑪どのような手段で情報を収集していますか
- ⑫地域の防災訓練に参加したことがありますか
- ⑬自宅の近くの避難所を知っていますか
- ⑭避難所まで誰と、どのような方法で移動しますか
- ⑮避難所で配慮が必要なことは何ですか
- ⑯福祉避難所があることを知っていますか
- ⑰自由意見

II-2 調査結果詳細

①週に何回くらい、どこに外出しますか

○平日は、通院や通所等の理由で多くの要配慮者は外出している。

要配慮者の外出先や外出の頻度を聞いたところ、病院、施設、散歩など日常的に外出しており、発災時には自宅だけではなく、移動中や外出先にいる可能性が高いことが分かった。

- 通院以外ほとんど外出しない。家にいる。 (90代・男性)
- 毎日昼と夜、コンビニエンスストアに歩行器で買い物に行っている。雨が降ると行けない。 (80代・男性・要支援)
- 朝6～9時まで不在にしている。毎朝、ラジオ体操、棒体操、地域猫へのエサやりを行っている。 (80代・女性)
- 毎週月・水・金は透析、それ以外は3か月に1回血管外科、外科。眼科にも通院している。 (80代・男性・透析等・要介護3)
- 週3回外出（デイサービス（週2）、歯科（週1））、不定期に眼科、耳鼻咽喉科にも通う。 (70代・女性・要支援1)
- 週5日は9～16時で通所。土・日は本人の希望でお出かけをしている。 (20代・女性・知的障害／母)
- 就労継続支援事業所に週5日、土・日は用事があれば買い物に出かける。 (40代・女性・精神障害等)
- 毎日。仕事は月曜から金曜まで。土曜もいろいろあって忙しく、日曜も出かける日がある。 (50代・女性・聴覚障害)
- 体を動かしたいため、週半分くらい散歩に出ている。ほかにダンスを週2、3回。 (70代・女性・視覚障害)
- 障害者福祉センターへの通所は日中活動（週5）だが、それを含めてほぼ毎日外出している。 (40代・男性・肢体不自由・視覚障害)
- 月曜から金曜は障害者福祉センターに通所している。土・日は散歩に出かける。 (70代・男性・内部障害等)
- デイサービスは週4日。家にいるときは雨が降っても散歩に出るので、毎日外に出ている。 (60代・男性・認知症・要介護1／妻)

②外出の際、困ることや気になることは何ですか

○多くの要配慮者が日常的に移動・情報・精神面の困りごとを抱えている。

普段の外出時のちょっとした困りごとが、災害時に大きな問題になると考え、外出時の困りごとを聞いたところ、「転びやすい」「一人で移動できない」「長く歩けない」など移動に関する困りごとをはじめ、様々な困りごとがあることが分かった。

- 転びやすいので、転ばないように気をつけている。足が上がらないので階段が危ない。(70代・男性・難病・要支援1)
- 雨が降ると歩行器が使用できない(電動アシスト付きのため)。(80代・男性・要支援2)
- 電車の車内放送が分からない(その他肉声でない音声は分からない)。背後から話しかけられても聞こえない。(10代・女性・聴覚障害)
- 一人で外出はできない。血栓や心不全が起きると心配されている。災害が起きたらどこに連絡をしたらいいのか。目が悪いので段差が分からない。距離感が分からず転んだ。(70代・女性・内部障害等・要介護2)
- 移動が大変。車いすに呼吸器、酸素、吸引器など、娘に必要なものがすべて積めるようになっている。呼吸器付で移動となると、どう考えても一人では無理だ。(20代・女性・重症心身障害/母)
- 杖を使用しても長く歩行できない。坂があるので、車いすも使えない。(70代・男性・高次脳機能障害・要介護3)
- 聞こえないこと/坂が多いので移動が大変。(80代・女性・事業対象区分(介護))
- 外出の際、単独行動はとらないようにしている。足元がおぼつかないなので、必ず夫と出ると決めている。(80代・女性・難病等・要介護2)
- 以前歩行中に転倒した。足腰が弱くなって、躓きやすい、階段が不安、下りのエレベーターが怖い、重い荷物が持てない、米・水を買っても持ち帰ることができない。(80代・女性・要支援1)
- 自分が気に入ったものがなかったりすると、大きな声を出す。周囲の人が振り返ることがある。(20代・女性・知的障害/母)
- 通勤が困る。バスは不安だけど(先が読めないため)、電車だったら安心感がある。(20代・男性・知的障害)

- 一人での外出が難しく、ガイドヘルパーをお願いしている。
(40代・男性・知的障害等／母)
- 体調に波があって、貧血に似ためまいとか、本屋に行くと立ちくらみを起こしたりする。めまいはいつ起こるか分からない。
(40代・女性・精神障害等)
- 電話の依頼に対して「できない」と断られることがある。それが一番困る。
(60代・女性・聴覚障害等)
- 食事については、飲み込みは上手だが、噛むことができないので、刻むとかミキサーで小さくしないと食べられない。また、おむつをしているので横になれる場所を探さないといけない。
(30代・男性・重症心身障害／母)
- 地下鉄の駅のエレベーターが少なく、旅行客で混雑してなかなか乗れなかったりする。
(10代・男性・重症心身障害／母)
- 電車に乗っていると、事故とかで電車が止まるときがある。そういうときに至急案内があればいい。音声案内はあるのかもしれないが、聞こえないので、突発的な状況を判断するのが難しい。
(50代・女性・聴覚障害)
- 点字ブロックに物を置かれるととても困る。(白)杖を蹴とばされることもある。
(70代・女性・視覚障害)
- 目が悪いので細かいことはたくさんある。またトイレでは、車いすなので立って移動しないとイケない。
(40代・女性・肢体不自由・視覚障害)
- 歩道と車道のところ、横断歩道のところも段差があって、電動車いすでも上がりきれないところが多々ある。
(70代・女性・肢体不自由)
- 周りの音に敏感で、急に大音量が流れるとびっくりする。また限られた空間、狭い空間だとより緊張しやすい。
(20代・男性・精神障害)
- 移動の際、自分で思い通りのペースで歩けなくなってくると、独り言のように周囲に暴言を始める。
(40代・男性・精神障害)
- 体調を崩しやすい。病院に行っても原因はよく分からない。
(60代・男性・精神障害)
- 段差が全くダメなので、段差がないところを選んでる。傾斜もダメで体をまっすぐに保つことができない。トイレはシルバーカーごと入れる広いトイレが必要だ。
(90代・女性・軽度認知症・要介護4／子)
- 連絡の取り方が気になる。外に出ることが多いのでGPSを契約している。
(60代・男性・認知症・要介護1／妻)

③災害のときに不安なことは何ですか

○避難の方法、避難所、医療に関する対応など要配慮者は様々な不安を抱えている。

実際に災害が発生したらどのようなことが不安か、東日本大震災等の経験から想像できることについて聞いたところ、避難の方法や避難所生活、人工透析や服薬などの必要な医療の確保に関すること、また、知的障害者の方のパニック症状の可能性など様々な不安を抱えていることが分かった。

- 階段を降りられないため、エレベーターが停止すれば、避難できない。
(80代・男性・要支援2)
- 火事が一番怖い。火事が出なければ家にいられる。
(70代・男性・難病(寝たきり)・要介護5/妻)
- 避難所がどこか分からない。
(70代・女性・内部障害等・要介護2)
- 避難所まで歩けず、車いすでも移動できないため、避難所に行くことは諦めている。
(70代・男性・高次脳機能障害・要介護3)
- 家が古いので、倒壊を心配している。
(70代・女性・難病等)
- 妻が不在時の支援者がいない。ご近所付き合いはない。あと、新しいところが怖い。どこに何があるかまったく分からない。災害時は動かないほうがいいと思っている。
(70代・男性・視覚障害)
- 人工透析は週3日。そのときに地震になったらどうしたらいいのか。個人で動くのは無理。区からの支援が必要。病院で「もしものとき」の案内はあるが、個人で医療機関を探さないといけない。
(80代・男性・透析等・要介護3)
- 人のことなんてかまっていられない。私は猫が一番。どうしたら助かるかが問題。一人ひとりが自分のことを考えるのが大事ではないか。
(70代・女性・要支援1)
- この辺りの地域の避難所である小学校までは、とんでもない坂道だ。坂下の高齢者、障害者は行けない。
(20代・女性・重症心身障害等/母)
- 周囲の人とうまくいかず(避難所に)いられなかったという記事を読むと、避難所の生活が不安だ。
(20代・女性・知的障害/母)
- パニックになることが怖い。一番心配しているのは通勤時に電車の中で災害が起きて、車内が暗くなったとき。
(20代・男性・知的障害等/母)

- 一番はどこへも行けないこと。たとえ周りが大変でも、住めたら家を動かない。
(40代・男性・知的障害等／母)
- 睡眠薬が1週間分しか処方されないので災害時に薬がなくなるのが不安。どうやって薬を入手したらよいのか。
(40代・女性・精神障害等)
- アパートが木造で古く崩壊すると思う。
(70代・女性・精神障害等)
- 3・11のときに聞こえる人が情報を教えてくれなかったの(知人に)何でも教えてほしいとお願いしている。
(70代・女性・聴覚障害等)
- 避難所から食糧等をもらうことができるのか。町会とどうかかわっていけるか不安。
(30代・男性・重症心身障害／施設長)
- 避難所に行かないと、情報や(食糧等の)配給などがないのではないかという心配があったりする。
(20代・男性・重症心身障害／両親)
- 視覚障害者は、どこに逃げればいいのか分からないし、動けない。
(60代・男性・視覚障害)
- 一人では何もできない。障害者福祉センターにいれば、職員もいるし、誰かしらいるから安心だ。
(70代・男性・肢体不自由)
- 避難所では、和式トイレは無理。
(60代・男性・肢体不自由)
- ストマ(人工肛門)の処理、介助者が必要なこと。
(70代・男性・内部障害等)
- 出先で災害に遭った場合は、パニックを起こさないか、また避難所で自分が耐えられるか不安。
(20代・男性・精神障害)
- 火事が不安。今住んでいるマンションはあまり揺れないが、それでも地震が起これると怖い。
(30代・男性・精神障害)
- 病気があるので、薬がなくなると不安。普段は朝昼夕の3回飲んでいる。薬はいつも持ち歩いている。
(50代・男性・精神障害)
- うつ状態のときに地震があると大変。冷静な判断ができなくなる。
(60代・男性・精神障害)
- 家の倒壊と火事。
(80代・男性)
- 災害時にどこにいるのか、(夫が)外にいるときに不安。
(60代・男性・認知症・要介護1／妻)
- 毎日散歩に行っている。そのときに災害が起こり、私(子)が駆けつけられないとき、周りの方に助けてもらえるかと不安。
(80代・男性・認知症・要介護3／子)

④災害が発生したら避難所に行きますか

○発災後、自宅が無事である場合でも「避難所に行く」と答えた人が2割強だった。

発災後に、自宅が無事である場合に自宅に留まるか、避難所に行くかを聞いたところ、「避難所に行く」と答えた人は2割強、「行かない」と答えた人は5割台半ばを超えた。

「避難所に行く」では、在宅生活での不安をあげる意見がある一方で、「行かない」では、避難所の環境に不安を感じる意見が多く聞かれた。

行く =21%

- 避難所に行くことになると思う。 (80代・男性・要介護2)
- 避難所に行きたい。場所は知っている。 (70代・女性・精神障害等)
- マンションは古いので、発災してから24時間は一次避難所に行く。余震がなくなるとい状態になるまでは福祉避難所にお世話になって、と思っている。 (20代・男性・重症心身障害／両親)
- 避難所に行く。知り合いがいるかもしれないから、一時的に避難所に行って状況を見る(確認する)。 (60代・男性・視覚障害)
- たぶん行くことになる。荷物の散乱がひどく、家にいられる状況じゃないと思う。 (40代・男性・精神障害)

行かない =56%

- 避難所には行かない。自宅で潔く死ぬつもり。 (80代・女性・要介護1)
- 避難所には行きたくはない。僕が行ったら周囲の人に迷惑をかける。 (70代・男性・視覚障害)
- 家に留まる。多数の猫を連れて避難所に避難するのは無理だろう。 (70代・女性・要支援1)
- 体温調節が難しく、体育館の生活になったときにどうかなと思う。 (20代・女性・重症心身障害等／母)

- たぶん無理。イライラすると独り言が多い。普段でも独り言が多いが、慣れない状況・環境になると大きな独り言を言うと思う。迷惑をかけることは分かっているので、家にいる。(20代・男性・知的障害等／母)
- 行かない。福祉避難所体験みたいなのを、子どもと一度体験した。エアマットの音がうるさくて、眠れなかった。無理だと思った。あそこに寝るくらいなら家で寝る。(20代・男性・知的障害／母)
- 災害の話を知ると、避難所は難しい。(20代・男性・肢体不自由／母)
- 避難所に行くことはたぶんない。外に出られたとしても、車いすのタイヤって空気ゴムなので、がれきやガラスが散らばっているとタイヤがパンクして動けないので自宅で待機する。(40代・男性・肢体不自由等)

状況次第 = 20%

- 状況次第。自分で実際にできる範囲で情報を集めて、行動を起こす。(50代・女性・聴覚障害)
- 避難所に行って、我々に対応できるかというのが一番不安。かといって家にいても周りのことは何も分からない。(70代・男性・視覚障害)
- すべて自宅で賄えるなら、自宅にいる。ライフラインが止まったら避難所になる。(20代・男性・精神障害)

⑤電気・ガス・水道が止まった場合に困ることは何ですか

- 電気・ガス・水道の3つのライフラインのうち、エレベーターでの移動ができなくなるなど停電時の影響が最も大きい。

車いすを利用する人や階段の上り下りが困難な人にとっては、停電した場合にはエレベーターが停止して、移動ができなくなるという意見が多かった。また、聴覚障害によって、補聴器を使用している人は停電でバッテリーが充電できなくなるのは困るという意見もあった。

- 2階が生活の場なので、エレベーターが止まると車いすが使えず、外に出られない。(20代・男性・重症心身障害／母)

- 停電すると補聴器の電池が充電できなくなる。予備のバッテリーを携帯してる。
(10代・女性・聴覚障害)
- 電気が止まると暖房が使えないので、石油ストーブを用意した。夏はどうなるのか考えられない。
(70代・男性・難病（寝たきり）・要介護5／妻)
- マンションはオール電化なので、電気が止まると困る。でも、私がここに住んでから（昭和62年）、停電にあったことがない／エレベーターが止まるのが一番怖い。
(70代・女性・内部障害等・要介護2)
- 電気が止まるとエレベーターが止まる。そうすると、呼吸器や吸引器などを搭載した車いすが運べない。
(20代・女性・重症心身障害／母)
- 車いすなので、歩いて下に降りることはできない。(70代・男性・難病・要介護5)
- エレベーターが止まると動けない。歩行は杖があれば可能だが、腰痛があり、立つ・階段の昇り降りがつらくなってきた。
(80代・女性・要支援1)
- 水、電気が止まるのは困る。飼い猫の健康や生活に影響が出る。
(70代・女性・要支援1)
- 痰の吸引器はいつも充電している。停電になった場合はどうするか、まだ分からない。
(20代・女性・重症心身障害等／母)

⑥家具に転倒防止等の安全対策をしていますか

- 家具の転倒防止のため、家具転倒防止器具の取付けに限らず、各家庭では、様々な対策を実施している。

新宿区の家具転倒防止器具取付事業の利用について聞いたところ、事業の利用にとどまらず、リフォームで家具を作り付けにする、背の高い家具を置かないなど、様々な家具転倒防止の対策を実施していることが分かった。

- 家具転倒防止器具は区で取付けてもらっていたので、（東日本大震災で）家具はほとんど倒れなかった。
(80代・女性・要支援1)
- 私の障害の程度や自助能力を考えたら、モノを置かないようにすることに限る。置いたとしても低い位置。
(30代・男性・肢体不自由)
- 東日本大震災以来、お線香を止めた。お線香で火事になったら大変だから。
(90代・女性・要支援1)

- 桐タンスも和ダンスも壁に止めてある。また古い雑誌をガムテープでまとめてタンスと天井の隙間に入れている。 (80代・女性・要支援1)
- タンスなど背の高い家具は3畳の和室に全部入れた。 (80代・男性・透析等・要介護3)
- 背の高い食器棚などを処分した。 (70代・女性・難病等・要介護5)
- 背の高い家具はすべてはめ込み式にしている。食器棚の扉はすべて振動などで開かないよう、飛び出し防止の止め金具を付けている。 (80代・男性・内部障害)
- 突っ張り棒、扉の開閉の防止、ガラスに飛散防止フィルムを貼った。大きなものや倒れそうな家具は一つの部屋に集めた。寝室にはモノを置かない。 (20代・女性・知的障害/母)
- 家具転倒防止器具は、ほぼすべて(の家具)に付けている。 (40代・男性・知的障害/母)
- 比較的に家具が少ない。寝室には何もない/家具転倒防止器具を無料で取付けができるということなので、今後活用したい。 (10代・男性・重症心身障害/母)
- 自宅をバリアフリーにリフォームし、家具や棚を作り付けにして転倒しないように対策した。 (90代・女性・軽度認知症・要介護4/子)

⑦災害時の連絡方法や集合場所を決めていますか

- 災害時の連絡方法、集合場所などを具体的に決めている人は少ないが、緊急連絡先のメモを作成していたり、スマートフォンを利用した連絡手段を備えている人もいる。

災害時には電話が通じにくくなるため、普段から電話以外の家族等と災害時の連絡方法や集合場所を決めているかを聞いたところ、具体的に連絡方法や集合場所を決めている人は少なかったが、一部に緊急連絡先のメモを作成していたり、スマートフォンを持ち、家族と連絡手段を備えている人もいた。

- 今までに話し合ったことはない。向こうから連絡が来る。でも、こちらからも連絡できたらいい。携帯があれば便利かも。 (80代・女性・要支援1)
- 互いに(夫婦)携帯電話を持ち歩いている。 (80代・男性・要支援2)
- 私(本人)と母はスマートフォンなどで連絡ができるが、父は携帯電話を持って

- いない。 (10代・女性・聴覚障害)
- 連絡先を大きなメモ帳にまとめている（息子、病院、ケアマネジャー、ご近所、警察、親せき等）。いつも決まった場所に置いてある。 (80代・女性・要介護1)
 - 娘とはスマートフォンでやり取りしている。息子は精神障害があり携帯電話は持たせていない。 (70代・女性・難病等)
 - 必要な連絡先（子、医療機関、ケアマネジャー等）はスマホのアドレス帳に入力済。スマホは枕元に置いている。 (80代・女性・要支援1)
 - 私は避難所には行かず、(飼っている)猫2匹をリュックに入れて長女の家(区内)に行くことになっている。 (80代・女性・難病等)
 - (連絡方法は)いろいろな手段を持っていないとダメ。災害用伝言ダイヤルやSNSは有効だと思う。 (20代・男性・重症心身障害／両親)
 - 全然していない。母は高齢で、何かあったとき一人にするのは不安。何かあったら自分以上にパニックになる。 (20代・男性・精神障害)
 - 姉と母が他区に住んでおり、その二人が行く最初の公園は確認している。何かあれば、私は姉と母がいる他区に行くことになっている。 (40代・男性・精神障害)

⑧食糧等の生活物資を備蓄していますか

- 食糧は多くの人が準備しているが、その他の生活物資の準備はあまり進んでいない。

災害が発生しても自宅で生活できるよう、最低3日分の食糧などの生活物資の備蓄を呼びかけており、その状況を聞いたところ、水・食糧の備えは多くの人ができている。一方、懐中電灯やカセットコンロ、簡易トイレ等のライフラインの停止に向けた備えができているとの意見は多くなかった。

- 備蓄はある。1日1回は餅を食べる。雨が降ると(買い物に)出られないので、カップラーメンを食べている。 (80代・男性・要支援2)
- 前から少しずつ準備していた。おかゆ、おむつ、水、サバの味噌煮缶、クッキー、乾パン、(本人用の)栄養水など。薬などは余分にとってある。 (70代・男性・難病(寝たきり)・要介護5／妻)
- 水(6本分・隣接の神社の井戸水が使えるので少なめ)、缶詰、風呂に水は溜め

ている。カセットコンロ、薬（10～20日分）、紙おむつ（相当数）、非常用トイレ。

（70代・男性・高次脳機能障害・要介護3）

■水は準備している。食糧は缶詰など、何かしらある。（90代・女性・要支援1）

■備蓄品は特にしていない。前は食糧、水などは準備してあったけれども、それから取り替えていない。（80代・女性・要介護1）

■水、缶詰パン、冷凍パン、風呂の残り湯。（80代・女性・事業対象区分（介護））

■普段のためにも水は多めにある。（30代・女性・知的障害等／母）

■飲み水、食べ物、缶詰とか長く置けるものがあるし、ガスコンロや簡易トイレも用意している。（50代・女性・聴覚障害）

■レトルトは本人と共有できるものを置いている。缶詰や水は5年保存ではなく、生活のなかでローテーションしている。（20代・男性・重症心身障害／両親）

■飲料用にペットボトル4本を備蓄している。食べ物は特に備蓄していない。家には何かしら食べ物がある。（70代・男性・肢体不自由）

■水とお茶はあるが、自炊はしないので、食べ物は置いていない。

（50代・女性・精神障害）

■薬は大量にあり、ひとまとまりにしている。テーブルにLED電球、ラジオを、ベッドの下にはスリッパを置いてある。（70代・女性・内部障害等・要介護2）

⑨非常用の持出品を準備していますか

○高齢者を中心に薬など自分に必要なものを持出品としている人は多い。一方で、発災後も自宅にとどまり続ける意向の人には持出品を準備しない人もいた。

避難所に向かわざるを得ない状況になった際、避難所では対応できない個々の薬や保険証等を持出品として準備する必要があるため、状況を聞いたところ、高齢者には予備薬として薬を用意している人は多かったが、発災後も自宅にとどまり続ける意向の人には持出品を準備しない人もいた。

■嫁が持出用のバッグを用意してくれた（水が2本、食べ物も入っている）。中身はよく知らない。（80代・女性・要支援1）

■災害用のセットを購入した。品も少しは入っている。薬が必要だが、余分には取っていない。これから準備する。（70代・男性・難病・要支援1）

- 災害用持出品はない。避難は考えていない。
(70代・男性・高次脳機能障害・要介護3)
- 必要なのは薬、服薬ゼリー、とろみ用スープ。薬は1日でも切れないほうがいい。
(70代・男性・難病・要介護5)
- ベッドの引き出しに靴を入れている。バッグにはスマホ、補聴器用電池、保険証、眼鏡を入れている。
(80代・女性・事業対象区分(介護))
- 玄関に保険証や現金を置いている。災害用リュックサックに着替えなどを入れている。
(70代・男性・視覚障害)
- (自宅にいるつもりなので)持出用リュックなどは準備していない。
(40代・男性・知的障害/母)
- 携帯電話と障害者手帳、ラジオ、予備の電池、ライト、お薬手帳と2、3日分のお薬が入ったウエストバッグを持って出ようと思っている。
(60代・男性・肢体不自由)
- 持出用バッグを作ったときもあったが、今はない。
(40代・男性・精神障害)
- 薬は大量にあり、ひとまとまりにしている。(70代・女性・内部障害等・要介護2)

⑩ 普段必ず持ち歩くものは何ですか

○携帯電話や健康保険証、各障害者手帳を携帯する人は多い。

全体的に携帯電話、スマートフォン、健康保険証、障害者では身体障害者手帳、愛の手帳等を携帯する人は多かった。また、知的障害の保護者の中には、紛失の恐れなどの理由からヘルプカードを携帯させていないという意見もあった。

- マイナンバーカード、息子の連絡先。
(90代・男性)
- 健康保険証、免許証、携帯電話は持ち歩いている。(70代・男性・難病・要支援1)
- 「電話お願い手帳」(NTT発行)に連絡先を記入して持ち歩いている。また、予備電池も手帳に張り付けて携行している。
(10代・女性・聴覚障害)
- バッグの中にいつも入っているのは、メモ帳、住所、診察券、バス券など。
(90代・女性・要支援1)
- 健康保険証、血液型を書いた紙。携帯電話は持っていない。
(80代・女性)

- 携帯電話、ペースメーカーの手帳、身体障害者手帳を持ち歩いている。
(80代・男性・内部障害)
- ヘルプカードは持っているが何も書いていない。愛の手帳を持っているので住所、障害名は分かる。
(20代・男性・知的障害等／母)
- ヘルプカードや連絡先を持たせても、いつもどこかに捨ててきてしまう。
(40代・男性・知的障害／母)
- スマホ、愛の手帳。ヘルプカードは持たせていない。持たせるかどうか悩んでいる。
(30代・女性・知的障害等／母)
- 何かあった場合のために薬1回分を持つようにしている。
(40代・女性・肢体不自由・視覚障害)

⑪どのような手段で情報を収集していますか

- 情報収集にテレビを利用している人は多い。スマートフォンを所持する高齢者は、情報ツールではなく、連絡ツールとして利用している。

災害時にはいかに情報を収集するが重要になるため、普段情報ツールとして何を利用しているかを聞いたところ、ほとんどの人がテレビを利用している。また、スマートフォンは、若い世代ほど所持しており、情報ツールとしている。高齢者にもスマートフォンを所持している人はいたが、情報ツールとして活用できているのは一部で、多くは家族との連絡や電話帳として利用している。

- テレビ（字幕付き）、インターネット、スマートフォン。(10代・女性・聴覚障害)
- テレビ。(目がほとんど見えないため)新聞は見れない。(80代・女性・要介護1)
- テレビ（字幕付き）、インターネット、広報紙など。
(80代・女性・事業対象区分(介護))
- ラジオを常に聞いている。その他、テレビ。(70代・男性・視覚障害)
- テレビ、インターネット、メール、新聞など多種のメディアを利用している。
(80代・男性・内部障害)
- ラジオ。インターネット、スマートフォンに配信されてくる情報を見ている。
(40代・女性・精神障害等)
- ニュースなどはテレビで見ている。スマホは持っているが、ガラケーのようなメ

- ールだけ。 (60代・女性・聴覚障害等)
- パソコン、スマートフォン。 (40代・男性・精神障害)
- テレビ、スマートフォン。 (30代・男性・精神障害)
- 携帯ラジオとか。スマホは持ってはいるが、ラインだけ。
(60代・男性・認知症・要介護1／妻)

⑫自宅の近くの避難所を知っていますか

- 自宅の近くの避難所を知っている人は6割強だった。

在宅での生活が困難な場合には、避難所で生活することになる。もしものときにも迷うことなく避難できるよう、自宅の近くの避難所を知っているかを聞いたところ、避難所を知っている人が6割強、知らない人は4割弱だった。なお、一時集合場所を避難所であると認識していた人、以前通っていた小学校に行く方が安心するという人もいた。

「知っている」=61% 「知らない」=39%

⑬地域の防災訓練に参加したことがありますか

- 地域の防災訓練に1回でも参加したことがあるという人は3割弱、参加したことがない人は7割強だった。

要配慮者がどの程度地域の防災訓練に参加しているかを聞いたところ、高齢者、障害者に限らず、参加したことがある人の中には、不満を感じている意見があった。参加したことがない人には、防災訓練が実施されていることを知らない、という意見が多かったが、誘われれば参加したいという人、迷惑がかかるから参加しないという人など、様々だった。

なお、障害者で日頃から通所する施設がある場合、その施設で実施する訓練に参加している人は多かった。

「参加したことがある」=28%

- ずっと立っているのが困難。もし誘いに来てくれたら行こうと思う。動けなくても見ているだけでもいろいろ分かる。 (80代・女性・要支援1)

■それまでは参加していたが、ここ2年ほど参加していない。回覧板が回ってくる。行くと、知っている顔がある。防災は自分を守るためだから参加しようと思う。

(80代・女性・難病等)

■家族4人、車いす2台で参加した。地域にはこういう人たちがいる、と存在をアピールしようと思って。

(20代・男性・重症心身障害／両親)

■配慮がなくてついていけなかった。みんなについていくのはどうかと思って参加したけど、それで懲りた。やっぱり障害者は対象にしてくれない。お邪魔虫、お荷物になるかなという感じ。本当は参加したほうがいいかなと思うけど。

(70代・女性・視覚障害)

「参加したことがない」=72%

■もし誘われたとしても参加しない。訓練に出たら、僕自身、見えないことで怪我をするかもしれない。また、他の方々に迷惑をかけてしまう。

(70代・男性・視覚障害)

■参加したことがない。通知もない。誘いがあつたら、1回くらいは参加してみたい。

(80代・男性・内部障害)

■町内会に入っていない。皆さんに子どもの事情を理解してもらえるか抵抗があり、そこまでできていない。

(10代・男性・重症心身障害／母)

■訓練を行っていることすら知らなかった。誰かに勧められたら参加するが、自主的には参加しないと思う。

(40代・女性・精神障害)

■坂の上にある小学校でやるようになって行かなくなった。高齢者にとってそういう場所はバリアだ。

(90代・女性・軽度認知症・要介護4／子)

⑭避難所まで誰と、どのような方法で移動しますか

○避難所まで移動するには、様々な困難な問題がある。特に、車いす利用者や重症心身障害者は、単独での移動は難しい。

発災時に在宅での生活が困難になった場合、避難所に移動することになるため、その可否及び方法を聞いたところ、避難所が坂の上にある、要配慮者が家族の中に複数いる、散乱したガラスの破片などにより車いすがパンクするなど移動について様々な困難な問題があることが分かった。

- 杖を使って徒歩で。手伝ってくれる人（姪）がいれば車いすで移動できる。
(90代・男性)
- 歩いて移動する（夫：歩行器、妻：両杖）。ここから20分以上かかる（約450m）
と思う。
(80代・男性・要支援2)
- 行くとしたら徒歩だが、一人では行けない。手伝ってくれる人はいない。
(70代・女性・内部障害等・要介護2)
- 大量の水、栄養剤、おむつなどが欠かせないため、荷物が多い。移動の際、複数
の人手が必要。
(20代・女性・重症心身障害等／母)
- 義母を車いすに乗せて、ペットを連れて、無理だと思う。
(20代・男性・知的障害等／母)
- 手をつないで歩く。祖母は車いすで移動する。息子と娘が家にいるときは手伝っ
てくれる。（普段は）声をかけてくれる方もいるが、初めてのの方が接するのは難
しい。
(30代・女性・知的障害等／母)
- まず子どもと連絡を取って、歩いて学校まで移動する。避難するときは両親、お
ばあちゃん、子どもと5人で移動する。
(40代・女性・精神障害等)
- バギー又は車いすだが、特別な扱いは不要。災害時に平坦な道を確保できるかと
いうことはある。
(10代・男性・重症心身障害／母)
- そんなの行けるわけない。その公園までならなんとか行けるかもしれないが。
でも物も落ちてくると歩けない。
(70代・女性・視覚障害)
- 避難する人と車いすがぶつかり、ひっくり返るのではないかと不安を感じる／避
難所に行くことはたぶんない。外に出られたとしても、車いすのタイヤは空気ゴ
ムなので、がれきやガラスが散らばっているとタイヤがパンクして動けないので
自宅で待機する。
(40代・男性・肢体不自由等)

⑮避難所で配慮が必要なことは何ですか

- 配慮が必要なことは、個々に異なり、様々である。特に、就寝時の環境、設備及びコミュニケーションの方法に関することが多かった。

要配慮者が避難所で生活する場合には様々な配慮が必要となるため、その具体的な内容を聞いたところ、要配慮者それぞれに配慮が必要なが異なるということが分かった。ベッドやマットレスが必要なこと、環境の変化に敏感であること、コミュニケーションに工夫が必要であるなどの意見があった。

- 大きな声を出すので、周囲の人に迷惑をかける。おむつなので、その場で交換することになる。できれば目隠しになるような仕切りがほしい。
(20代・男性・重症心身障害／母)
- 布団には寝られない。ベッドが必要。
(80代・男性・要支援2)
- 会話はできるが、マイクの音声は聞き取れないので、文字に書いてほしい。ゆっくり話してほしい(口を見て聞いている)。
(10代・女性・聴覚障害)
- 基本的に食べられて、排泄をやってあげられる環境であればいいが、抱いたり抱えたりは無理。回数が少なくてもヘルパーさんに入ってもらえたらとても助かる。
(70代・男性・難病(寝たきり)・要介護5／妻)
- 褥瘡ができないマットが必要。感染、気温の上下など、環境の変化には非常に弱い。
(20代・女性・重症心身障害／母)
- ベッドがほしい。車いすは長くて2時間半が限度。
(70代・男性・難病・要介護5)
- 生活音・くしゃみ・食器がぶつかる音などがてんかんの発作を誘発するため、静かな環境を望む。
(20代・女性・重症心身障害等／母)
- 自閉の人が100人いたら、症状も100通り。それくらい違う。支援や注意点は個々に違う。子どもの集団にいるよりも、大人の集団にいるほうがいい気がする。
(20代・女性・知的障害／母)
- (自閉症は)視覚から入ったほうが分かりやすいので、指示を文字で書くとか、マークで示してほしい。
(20代・男性・知的障害等／母)
- 夜は暗い部屋で一人じゃないと寝つけない。とても大勢のところで寝るのは無理。薄明かりで眠れない。
(40代・男性・知的障害等／母)

- （介護をする母親が本人の）傍にいられる状況を作ってもらえるとありがたい。
配給の物資を代わりに取りに行ってもらおうとか。（30代・女性・知的障害等／母）
- ゆっくり話をしてあげること、話をちゃんと聞いてあげること。
（40代・男性・知的障害／母）
- 掲示板とか食糧を配給する時間とか、内容を含めて書いてほしい。
（70代・女性・聴覚障害等）
- 避難所に手話通訳がいればいい／お風呂や食事など時間が決まっていることは、
放送以外の手段で伝えて。（60代・女性・聴覚障害等）
- 食事は固いものが食べられない（刻みまたはミキサー食）、少しずつ食べさせる。
あとはおむつがあるといい。（30代・男性・重症心身障害／母及び施設長）
- 腫物をさわるように、押し付けるようなことはしないでほしい。
（40代・女性・発達障害）
- 自力で排便しにくいので、普段は訪問看護師が浣腸をして摘便している。食事に
ついては、誤嚥しやすいので、大人と同じ食事をミキサーにかけて食べている。
（20代・男性・重症心身障害／両親）
- 体を横にして休める場所がほしい。（20代・男性・肢体不自由／母）
- 避難所などでも一人で動けるが、障害物が怖い。誰かがいてくれれば安心する。
（60代・男性・視覚障害）
- まず視力障害への理解がないと。（70代・男性・視覚障害）
- 普段ベッドに寝ているので、布団がダメ。手伝ってもらわないと立てない。
（40代・女性・肢体不自由）
- 分かったふりをして頷くことが一番困る。オウム返しをしてもらえれば、分かっ
たことが自分にも分かる。（40代・男性・肢体不自由等）
- ストマ使用のため排泄の手助け。腕のまひ、欠指により自分でストマを扱うこと
ができない。（70代・男性・内部障害等）
- 人が大勢いるところは苦手。特に男性が苦手。静かな空間や、話を聞いてくれる
人がいると安心できる。（40代・女性・精神障害）
- （意思表示が）イエス、ノーだけなので。こちら側がどう考えているか思い量っ
て声をかけてほしい。（90代・男性・要介護1／子の妻）
- 話に耳を傾けてもらえれば。伝わった、言いたいことは言えた、という納得感が
得られれば（安心する）。（80代・男性・認知症・要介護3／子）

⑩福祉避難所があることを知っていますか

○福祉避難所の認知度は施設を利用する障害者には高かった。

福祉避難所という名称を知っている人は7割強だった。一方、障害者のうち、施設利用者は、施設での訓練に参加していることから、発災後の取るべき避難行動を理解している人が多いことが分かった。

「知っている」=72% 「知らない」=28%

⑪自由意見

調査に当たり、様々な要望や意見が寄せられた。今後の取組の参考とするため、なるべく多くの意見を紹介する。

(1) 避難行動・避難所に関すること

■最初に避難所に行かなくてはならないという仕組みを改善してほしい。最初から福祉避難所に行けるなら、行けた方がいい／福祉避難所は社福（社会福祉法人）とか入所施設の人たちのための仕組みになっている。地域に住む障害者のためになっていない。
(30代・男性・肢体不自由)

■優先順位ではないけれども、福祉避難所に直接行ける人をリストアップできる制度を作っていたら、〇〇さんはとても助かる／ヘルパーさんとはいかなくても区の方に困っていることの手助けをしていただけたらありがたい。

(70代・男性・難病（寝たきり）・要介護5／民生委員及び妻)

■避難所の備蓄品の中にも、とろみ食や服薬用のゼリーがあると助かる。

(70代・男性・難病・要介護5)

■避難所に医療的ケアができるヘルパーをおいてほしい／区の医療的ケアの研修の機会を増やしてほしい。

(20代・女性・重症心身障害等／母)

■自閉症は字が読めなくても、図柄のカードで示されると理解できる人が多い。（場所、手順など）避難所の壁に（カードが）貼ってあるといい。

(20代・男性・知的障害等／母)

- 災害があればこの人はここに逃げますというのが登録で決まってて、そこに行けば対応してもらえると分かっていたらいい。 (30代・女性・知的障害等/母)
- 避難所に障害者スペースがあるといい。普通の生活ができないことはきついが、障害者だけで仲間と一緒にだと「しょうがない、大丈夫」って案外我慢できる。 (40代・男性・知的障害等/母)
- (避難所について) プライバシーが守られるようにしてほしい。段ボールで仕切るなど、オープンでないほうがいい。 (30代・女性・知的障害等/母)
- 福祉避難所でお薬はもらえるのか。食事と合わせて服薬しているのでなんとかしてほしい。 (40代・女性・精神障害等)
- 境遇の似た人たちが固まった場所にいられたら、少しはお互いが我慢できるのかなというのは感じた。 (40代・女性・精神障害等)
- (手話通訳者について) マンツーマンでなくてもいい。例えば、避難所にろう者専用の部屋を作って、そこに1人通訳者を配置すればそれで十分だと思う。 (60代・女性・聴覚障害等)
- 福祉避難所が地区の町会さんにつながっていてほしい。 (30代・男性・重症心身障害/施設長)
- (福祉避難所の開設について) 親が少しでも手伝って、家族の力とかをあてにしてもらって、一刻も早く開けるとい方向にできないか。 (20代・男性・重症心身障害/両親)
- 福祉避難所が近くにないのが悩み。福祉避難所がどこかを周知されていないのが不安/要援護者名簿を出したら、人数を把握して、福祉避難所の収容人数の推定に役立ててもらえると安心。 (20代・男性・肢体不自由/母)
- 避難所での配慮より、まず避難所にたどり着けるかどうか心配だ/地域に盲人がいるということを知ってもらえると安心する/健常者の中では遠慮してしまう。 (60代・男性・視覚障害)
- 区でいろいろやってくれるのもいいが、もうちょっと障害者本人との話し合いをしてほしい。普通の人を組み立てたものはあてにならない。 (70代・女性・視覚障害)
- 避難所について、トイレが車いすごと入れるなどバリアフリーだとよい。簡易トイレだと使いづらい。 (40代・女性・肢体不自由等)

■障害者を優先してほしいなんて言えない。皆、困っているわけだから。お互いに譲り合うことが大事／障害者が障害者の手助けをするような方法を考えるとか、障害者もできることはあるので担い手になればよい。話し相手にはなれる。

(60代・男性・肢体不自由)

■統合失調症だが、狭い部屋は少し苦手。しかし、人が大勢いるとか子どもの泣き声が苦手ということはない。

(20代・女性・精神障害)

■高齢者や認知症の方も増えて難しいが、仲間と安心して、ちょっとした時間を過ごせるような避難所だったらと思う。

(80代・男性)

■福祉的な避難所があるというので安心した。(60代・男性・認知症・要介護1／妻)

■避難所は囲いとベッドがあるところがいい。横になることが一番大事／(災害時要援護者名簿について)存在を分かっておいてもらわないと。ここにいるというのを手を挙げておかないと、と思っている。(90代・男性・要介護1／子の妻)

■災害時、他の地域の施設の空きベッドに一時的に入れてもらうことはできないか。

(80代・男性・認知症・要介護3／子)

(2) 障害理解に関すること

■一般的に見る障害者というのではなく、(障害は)一人ひとり違うということを支援に携わる方には分かっていたきたい。(40代・男性・知的障害／母)

■精神疾患はひどいときは表面(言動など)に出るが、普段は分かりにくい。ただ見ただけではどこが悪いのって思われることが多い。(50代・女性・精神障害等)

■一次避難所では、車いすでのトイレ移動等のルートの確保が困難。できれば福祉避難所に避難したい。(40代・男性・肢体不自由・視覚障害)

■一番嫌なこと、やってほしくないことは、区役所の窓口に行くと、本人が言っているにも関わらず、本人と目を合わさず介助者に目を合わせたり、介助者に確認をとる対応。実際に用があってきたのは障害者本人であって、介助者がメインではない。(40代・男性・肢体不自由等)

(3) 在宅生活に関すること

■在宅避難した場合の食べ物とか水はどうなるのか。

(20代・男性・重症心身障害／母)

■(団地には)一人暮らしの認知症の人が結構いる。こういう人たちの世話をどうしたらいいのか／透析患者の行先を確保してほしい。通院先では、地震などの対

応はしていないようだ。連絡をしてくださいとだけ言われた。

(80代・男性・透析等・要介護3)

■避難所にいないと弁当は配布してくれないと聞いた。自宅から弁当をもらいに来たら（避難している人たちと）喧嘩だと思う。(20代・男性・知的障害／母)

■周りに頼れる人がいない。夜間が心配。(40代・女性・精神障害)

(4) 災害時における不安・問題

■災害時の不安について、相談相手がいるとよい。(80代・女性)

■災害時は不平不満を言ってはいけない。行政には弱い人から助けてほしい。

(80代・男性・要介護2)

(5) その他

■防災無線のこと。地域にも放送すると言うが、放送はない。

(70代・女性・内部障害等・要介護2)

■どこに聞けば、目の前の不安に対して答えてくれるか、特に高齢者は分かっていない／（障害者への災害情報の提供について）今、こういうことが起こっていて、（交通機関は）何が動いているとか、これで移動可能であるとか、復旧までにどれくらいかかるとか、目で見て分かるように。また視覚障害者のためには耳で知らせるとか、いろんな方法で知らせないといけない。

(90代・女性・軽度認知症・要介護4／子)

Ⅲ 資料

個別事例（概要）の紹介

1 基本情報：60代男性。認知症。要介護1。精神障害者保健福祉手帳3級。
主に妻からの回答。

2 インタビュー概要

- ・一週間のうち、デイサービスは週4日間。毎日、散歩に出ている。外にいるときの災害が不安。災害が発生したら、うちにいたほうが安心。家は耐震している。
- ・備蓄は、卓上のカセットボンベ、ガスもかなりストックしている。水は2箱くらい買ってある。冷凍食品と冷凍ごはん、ビスケットもある。3日分くらいを想定している。ライフラインが止まって困ることは、お薬だけ。日常生活で絶対に欠かせないものは、薬、メガネ、スニーカー。
- ・災害時、家族と連絡の取り方などは、3人の子が電車で一本のところに住んでくれて、連絡は取れるようにしている。
- ・夫は一人で避難所まで行けない。夫一人のときに災害が起きたら困る。
- ・夫は、意思疎通はできなくなっている。大きな声を出すことはないが、机をたたいたりしてリズムを取っている。周りの方にうるさいと言われることがある。
- ・町会に入っており、両隣には夫の症状を伝えている。何かあったら家に来るように言われている。

1 基本情報：20代男性。重症心身障害。身体障害者手帳1級、愛の手帳1度。
主に両親からの回答。

2 インタビュー概要

- ・会話は困難だが、不快なことなどは声を出したり、眉間にしわを寄せたりする。音楽は好きで、歌を歌っていると喜んでいる。座位の保持はできなくなってきた。
- ・災害時に不安なことは、避難所に行かないと、情報や食糧等の配給などがないのではないかという心配。古いマンションなので、発災後24時間は避難所、余震がなくなるという状態になるまでは福祉避難所にお世話になると思っている。災害時伝言ダイヤルやSNSは有効だと思う。
- ・備蓄は、レトルトは本人と共有できるので置いている。缶詰や水は、5年保存ではなく、生活の中でローテーションしている。
- ・以前、地域にはこういう人たちがいると、存在をアピールしようと思い、車いすで避難訓練に参加した。
- ・本人が普段横になるスペースをとるのは大変だと思うので、通常の避難所には限界がある。
- ・配慮や支援として、痰の吸引、排便。食事は、誤嚥しやすいので、大人と同じ食事をミキサーにかけて食べている。水は飲めないのに、ゼリーなどを用意。支援者が変わっても大丈夫。音に敏感。
- ・福祉避難所について、親が少しでも手伝って、家族の力とかをむしろあてにしてもらって、一刻も早く開けるという方向にできないか。たとえば、訓練をやることもできるのではないか。障害者をもつ家族の力を活用してもらえれば、互助の観点からいいと思う。

- 1 基本情報：40代男性。言語障害。身体障害者手帳1級。単身世帯。通所施設職員が通訳。
- 2 インタビュー概要
 - ・ 1週間のうち、生活介護事業所への通所が週5日。東日本大震災のときは、このセンターにいた。予定のヘルパーが来れなくなり、夜11時くらいまで誰もいない状況だった。センターで介助を受けられたが、ここを離れてから5、6時間くらいは一人で大変だった。
 - ・ 自宅の中で危険と思うのは、家具、パソコンなどが落ちてくること。
 - ・ ライフラインが止まると、状況にもよるが、一人のときは何もできない。困る困らない以前の問題で、自分自身では絶望的。
 - ・ 食糧品など備蓄品は、災害用のキットを鞆に入れてある。あと身体障害者手帳と現金。防災訓練には参加している。
 - ・ 災害が発生した場合、避難所に行くことはたぶんない。外に出られたとしても、車いすのタイヤが空気ゴムなので、がれきやガラスが散らばっているとバンクして動けないので自宅で待機する。
 - ・ 災害時、頼りにするのはヘルパーさん。災害が起きたときは誰もが被災者なので、来てくれるかは確約できない。ヘルパーがいない状況で耐えられるのは、やったことはないが、3日が限度だと思う。車いすは、リクライニングができ、バッテリーがある限り横になれるので、体の機能はそれで維持できると思う。でも、トイレの問題もある。食事もできない。飲食しない状態では頑張っても3日が限度。
 - ・ 情報収集は、インターネットで調べている。災害バッグに携帯ラジオを入れてある。
 - ・ 避難所（移動・避難生活）での生活に、ヘルパーはいないこともあると思うので、周りの人で協力してくれる人がいれば頼みたい。実際に行かないとバリアフリーかどうか分からない避難所よりも、確実に開いている福祉避難所がいい。福祉避難所の役割として、広域支援ができる体制を作るべき。社協のボランティアセンターとの連携を考えた仕組みを考えていく必要があると思う。
 - ・ コミュニケーションとしては、分かったふりをして頷かれることが、一番困る。オウム返しをしていただければ、そこまで分かったということが、こちら側にも分かる。気持ちが楽である。また、言葉だけではなくて文字で示すこと。

- 1 基本情報：70代男性。認知症。難病。要介護5。身体障害者手帳1級。主に妻からの回答。
- 2 インタビュー概要
 - ・ 去年秋から状態が悪くなり、3か月ほどショートステイを利用している間に歩けなくなった。嚥下障害もある。食事や排尿も今は自力でできない。胃ろうを増設した。一番怖いのは感染症。体力的に弱い。1日1～3回、痰をひく。
 - ・ 災害時は、火事が一番怖い。火事が出なければ家にいられる。そのためにブルーシート、カセットコンロなどを用意した。災害に備えて、食糧や水などの備蓄品は、少しずつ準備していた。おかゆ（本人用ではない）、おむつ、水、サバの味噌煮缶、クッキー、乾パン、夫の栄養水等その他。倉庫を作ったので、そこに入れている。菓などは余分にとってある（1週間分）。
 - ・ ライフラインの電気が止まると暖房が使えないので、石油ストーブを用意した。夏はどうなるか考えられない。
 - ・ 災害時の家族との集合場所は、町会の公園、その後小学校と話をしている。
 - ・ 避難所では、現在利用中のサービスなどの利用は無理だと思う。ヘルパーが被災されたり、職場に来れないとかある。今、家に来てくれるヘルパーさんをあてにすることは無理だと思う。区に手助けしてもらえないか。緊急時なので、あれもこれもやってほしいとは考えていない。
 - ・ 福祉避難所は知っている。電信柱や塀が倒れている中で、車いすを押しての避難自体は現実的ではないだろう。
 - ・ 災害時や緊急時に一番頼りにするのは、ご近所の人たち。ここは地域のつながりが強く、皆が夫のことを気にしてくれている。ありがたい。

- 1 基本情報：40代男性。知的障害。愛の手帳3度。グループホーム入居。主に母親からの回答。
- 2 インタビュー概要
 - ・1週間のうち外出は、作業所（週5）、プール（週1）、音楽活動（隔月1）、青年教室（月2）。
 - ・東日本大震災のときは、作業所にいた。災害時の不安は、災害が分かるかどうかだ。どういう災害で、どうしたらいいかが自分では分からないと思う。ヘルプカードや連絡先を持たせても、いつもどこかに捨ててしまう。
 - ・災害が発生しても家にいる。この子を連れて集団の中にいるのは親（母親本人）が辛い。（大地震が起きても）このマンションは潰れないと思うので、なるべく踏みとどまろうと思う。
 - ・家具転倒防止器具は、ほぼすべて（の家具）につけている。背が高くて、転倒防止の器具が入らないところは、段ボールを折りたたんで隙間につめている。
 - ・ライフラインは、（自宅が）9階なのでエレベーターが止まると困る。前の震災のときはガスが止まった。
 - ・備蓄は、乾麺類、ビスコ、水など3人用の3日分の食糧、携帯用ガスボンベ、携帯用トイレ100個、おむつ。（自宅にいるつもりなので）持出用リュックなどは準備していない。
 - ・コミュニケーションについては、理解できるかどうか分からないが、ゆっくり分かるように話をしてほしい。話をちゃんと聞いてほしい。最初は緊張して無口だが、慣れてくれば自分から話をするし、通じる。誰かに助けを求めるような、大きな声は出せない。
 - ・本人との連絡手段として、この子が電話をかけられるのは自宅だけ。携帯電話は、持たせるかどうか悩んでいる。しょっちゅう自宅に電話がかかってきても困る。
 - ・災害時、一番頼りにしている人は、マンションの隣家。地域の人たちに知ってもらおうよう、小さい頃から本人を連れ出して多くの人の目に触れるようにした。
 - ・移動の際の留意点としては、足に軽いマヒがあり、歩行が不安定なので手をつないでほしい。身体障害者手帳はない。
 - ・避難所に持っていきたいものは、ラジオ。いつもラジオを聴いていて、野球シーズンはうるさいくらい。その他、オモチャの電車、野球ゲームとテレビのリモコン。絶対に持っていきたいのは、小さなホワイトボード。うまく言葉で伝わらないときはボードに書いておく。ひらがなも漢字も書ける。その代わり、数はまったくダメ。
 - ・環境が変わっても体調が悪くなることはないが、寝なくなってうろうろする。普段から眠りは浅いし、睡眠時間は短い。
 - ・避難所では、他の方に気に障る行動があったとしたら、親は不安。気兼ねなく過ごせる場所であつたらうれしい。

- 1 基本情報：80代男性。要介護3。車いす使用。腎臓病。人工透析など。夫婦に聞き取り。
- 2 インタビュー概要
 - ・毎週、月・水・金（透析）、それ以外は3か月に1回血管外科、外科（がん）。眼科にも通院中。
 - ・4年前のがんの手術後、歩けなくなった。外出は車いすか、杖（付き添い人必要）でなんとか歩く。
 - ・災害時の不安として、20年間週3日透析に通っているが、そのときに地震になったらどうしたらいいのか。個人で動くのは無理。区からの支援が必要。
 - ・東日本大震災では、団地上層階は被害が大きかったが、うちは仏壇の線香立てが倒れただけ。タンスなど背の高い家具は、3畳の和室に全部入れた。
 - ・うちにいれば、何かしら食べられる。災害時の持出品としては、食糧（缶詰）、水、簡易トイレ、テント、ガスボンベがある。
 - ・避難所まで妻の付き添いがあれば、杖で歩いていくが自宅からかなり遠い。自分たちを含めて、高齢者の多くは無理。
 - ・避難所は、透析のできる医療機関が近いとよい。食事はカリウムを摂りすぎると心臓に負担がかかるため、生野菜でも水で流す。寝具はベッド、排便には時間がかかる。
 - ・地域は、高齢化率が高く、独居の方も多し。自治会の活動も棟によって温度差がある。この棟の住民はとても協力的。身内がいても、すぐには来れないと思う。ここでみんなで助け合っていく。
 - ・ここは病人と年寄りが多い。どこに行っても移動が問題になる。
 - ・一人暮らしの認知症の人が結構いる。こういう人たちの世話をどうしたらいいのか。自宅に戻すわけにはいかず、行政に任せるしかない。認知症だけでなく、障害者を優先的に保護する場所を確保してほしい。
 - ・避難所に行って、そこから福祉避難所というのではなく、直接行っても受けつけてもらいたい。
 - ・透析患者の行き先を都外に確保してほしい。

- 1 基本情報：20代女性。小児難病。全介助。車いす使用。身体障害者手帳1級。母親からの回答。
- 2 インタビュー概要
 - ・ 訪問看護師が来てくれるときに買い物に行く以外、私（母親）が一人で外出することはない。移動が大変で、車いすに呼吸器、酸素、吸引器など必要なものがすべて積めるようになっている。移動の際、必要とする補助具は、今、使っている座位保持兼車いす。移動も食事もこの車いすですしている。一番長く座る車いすなので、これをどうやって下に担ぎ出すかを話し合っている。
 - ・ 医療は、主治医に電話をするとすぐに来てくださる。24時間の相談体制。夜間は呼吸器を使い、常時吸引し、結構電気を使うので、災害時に停電になるのが一番不安。充電機を準備しているが、24時間は無理。保健センターで災害時の計画を作成し、毎年確認している。電気が止まるとエレベーターが止まり、車いすが運べない（かなりの重量になるため）。とにかく電気が必要。「家で過ごさない」というのであれば、緊急時に小型の発電機を一台、貸してくだされば一番安心。カセットコンロのボンベで発電できるもの（『EU91GEエネポ』）もある。
 - ・ 災害時や緊急時、頼りにするのは、家族以外では、かかりつけ医と看護師。ヘルパー、訪問看護などのサービスが途切れてしまったら、私の代わりに1日5回の導尿、常時の吸引などできる人を確保しなければならない。
 - ・ コミュニケーションは、顔色、表情など全体的に見て判断している。言葉をどこまで理解しているのか量りようがないが、伝わっていると思って接している。
 - ・ 食事は経管栄養。“栄養”は持参するが、避難所にもあると助かる。『エネポ』（経腸栄養剤）など一般に使われている。それから褥瘡ができないマットが必要。固いところだと褥瘡がすぐにできてしまう。衛生的には感染症が怖い。自分で温度管理ができない。寒いと（体が）冷える、暑いと熱くなる。個室あるいは2～3人くらいの少人数で過ごせる空間があると助かる。音は大丈夫だが、感染、気温の上下など、環境の変化には非常に弱い。
 - ・ 災害時の移動は、家族がいなければ近所の方をお願いする。マンション全体で防災訓練をしている。うちにこういう子がいることを知っている方が大勢いる。6年前ものぞきに来てくださった。

- 1 基本情報：70代男性、70代女性。視覚障害のある夫妻。ともに身体障害者手帳1級。夫妻に聞き取り。
- 2 インタビュー概要
 - ・ 1週間のうち外出するのは、(妻)体を動かしたいので、週半分くらい散歩に出ている。ほかにダンスを週2、3回。(夫)健康維持のため、ほとんど毎日近所を散歩している。
 - ・ 外出時に困ることは、(夫)ガイドがいれば何とかなるが、段差が怖い。(妻)点字ブロックに物が置かれていたり、自転車が通るのが怖い。白杖を蹴とばされることもある。
 - ・ 避難所については、(夫)最初は近所の公園、それから小学校に行って、それから避難場所に行く。(妻)そんなの行けるわけない。その公園までなら何とか行けるかもしれない。でも物が落ちてくると歩けない。今はなんでもない道だから、行けと言われれば行けるけど。(夫)災害が発生し、避難所に行っても、我々に対応できるかが一番不安。かといって家にいても周りのことは何も分からない。ここまで情報が届かない可能性がある。家がつぶれたときは居たくても居られない。家具転倒防止器具は取り付けてもらった。ないよりはいいが、安心はしていない。
 - ・ 普段連絡を取る手段は、携帯電話。この前みたいにすぐつながらなくなるだろうが。お互い、今日の予定を聞くから、行く場所は分かっている。
 - ・ 情報収集の手段は、(妻)ラジオ。NHKラジオは何かあった時に全部放送をやめて中継する。
 - ・ 防災訓練については、(夫)町内の避難訓練に1回行ったことがある。(妻)でも配慮がなくついていけなかった。障害者は対象にしてくれない。本当は参加したほうがいいかなと思うけど、ちょっと大変。誰かガイドさんでもいて、一緒に行くならいいが、いきなり2人で行ったらきつかった。(夫)参加したのは震災のすぐ後、経験しておかなければと思い参加したが、避難所には行けないと感じた。
 - ・ 避難所での生活には自信がない。一般の人とコミュニケーションがとれないし、障害者への理解がありそうでない。トイレは、何回か連れて行ってもらえれば分かるが、体育館みたいな広さの部屋に入れられると困る。私たちに必要な配慮は何かと問われれば、視力障害、障害者全体に対して理解が必要。

- 1 基本情報：60代女性（Aさん）、身体障害者手帳2級。70代女性（Bさん）、
 単身、身体障害者手帳1級。2人はろうあ者（聴覚障害、言語障害）のため、手話通訳者を介して聞き取り。
- 2 インタビュー概要
 - ・外出については、(A) 基本的に毎日。血圧の関係でウォーキングが必要と考えている。(B) パートで働いている。土日は休みだが、忙しいときは出勤することもある。
 - ・外出の際、困ることは、(A) お店で店員さんが言っていることが分からない。コミュニケーションのずれがあって困る。電話の依頼に対して「できない」と断られることがある。それが一番困る。(B) 地下鉄が怖い。地下鉄の事故だと車内が真っ暗になる。聞こえないし、嫌なので懐中電灯を持っている。
 - ・東日本大震災の時は、(A) 家に帰る途中で、団地のエレベーターの扉が開いて降りたときに揺れた。誰もドアを開けて顔を出す人がいなくて、団地の廊下に一人だったのでパニックになった。(B) 仕事中に揺れたので、外に出た。電線やビルも揺れていて、本当にびっくりした。何が起きているか分からず、結局夜中12時ごろ家に着いてテレビを見て、何が起こったかを知った。
 - ・災害時に不安なことは、(A) 同じフロアの人が助けてくれるかどうか。同じフロアは高齢者が多いので、情報をもらうことは難しいと思う。家族との連絡の取り方も不安。(B) 3・11のときに聞こえる人が情報を教えてくれなかったので、なんでも教えてほしいとお願いしている。
 - ・家族との連絡の取り方は、(A) メールについては、娘は大丈夫。夫はメールしても返事が返ってこない。(B) 娘2人と家族メールをしている。グループ全員が見られるようになっている。
 - ・情報収集の手段は、(A) 団地の代表者に聞く。あとはテレビのニュース。(B) テレビが見られなくなったら携帯。あとは難しい。
 - ・災害時に頼りにする人は、(A) 家族、(B) 家にいるときに何か起こったら、遠いところ（家族）よりも両隣の人が私が聞こえないと分かっているの、助けてもらえると思う。
 - ・地域の防災訓練には、(A) 都合がいいときには参加している。(B) 訓練には参加したことはない。
 - ・避難所での生活は、(A) 子どものころ、宮城県沖地震のとき、家族で小学校に避難した。私は聞こえなかったが、家族と一緒に弟が手話通訳をしてくれ、周りの聞こえる人が助けてくれたので、安心して逃げることができた。(B) 私には経験がないので分からない。
 - ・ろうあ者が福祉避難所で生活していくためには、(A) ろうあ者の場合、専用の部屋を作って、そこに1人通訳者がいれば一番いい。(A) 私は見た目は健康そうに見えるので行っても断られるのではないかと言われた。車いす、肢体不自由などはすぐ受け入れられると思うが、ろうあ者の場合、分からないんじゃないかと思う。断られたら一般の避難所に行くしかないかなと思う。

- 1 基本情報：40代男性（D）、50代女性（E）、60代女性（F）、40代女性（G）。精神障害者保健福祉手帳2～3級。発達障害者の団体代表（C）の呼びかけにより、4名のグループインタビュー。
- 2 インタビュー概要
 - ・身の回りの支援については、（E）躁うつ病で過眠症。寝ると起きられなくなってしまうので、起こしてもらいたい。（F）うつ、線維筋痛症、慢性疲労症候群などがあり、食事にも影響がある。ヘルパーさんに週2回来てもらい、掃除や洗濯をお願いしている。（G）身の回りのことは大体気力でやっている。重いものが持てず、普通の荷物でも長い時間持つのはつらい。
 - ・服薬については、（D）毎朝薬が切れると嗚咽する。強度の不安障害があるので、1回でも切らすと狂ってしまう。（E）すごく不安が強くなり、自分が自分でなくなるような状態になることがある。
 - ・東日本大震災のときは、（E）福島グループホームにいた。すぐ水が止まり、トイレやバケツでみんなの分を流していた。薬は飲んでいて記憶がある。食糧はご飯だけ、あとはみんなが寄付したものを少しずつ分け合って食べていた。（D）地下鉄の中だった。東京は普通の地震だったので何も感じなかった。子どものころ、電車通学をしていたので、満員電車は平気。（F）子どもの学校のイベントが中止になったので車に子どもの友だちも乗せて帰った。混雑と逆方向だったのでスムーズに帰れた。（G）息子がいて学校に迎えに行った。原発のニュースが入ってきたら怖くなって、実家がある沖縄に避難した。卒業式が近かったので、先生にこういう事情で沖縄にいますと言ったら叱られた。
 - ・備蓄については、（E）普段に食べているものでストックは、缶詰の魚とかレトルトのカレー、お湯だけ注げばいい食事。毎日料理はできないので。（G）粉ミルク。節約もあるけど軽いので。災害時には1週間くらいもつかもしいれない。あとフレーク。おいしすぎるのを買うとすぐ食べちゃうから、ほどほどで栄養があるものを買っている。（F）米を買っているのがたまっている。食糧はたくさんある。
 - ・（G）子どもっぽいけど、子どもではない。上から目線で腫物をさわるように、押し付けるようなことはしないでほしい。（F）発達障害が障害と認められた頃は詐病みたいに見られた。自分で情けなくなるが、できないことはできない。（G）においとかに過敏。こだわりが強い。ちょっとした一言の圧に弱い。
 - ・同じ障害の人同士で一緒にいる方が気は楽かというのと、（G）精神障害はそうではない。居場所に集まると皆、特技が違ったり楽しく、盛り上がるが、一人ひとりこだわりがあるから一緒に暮らすのは難しい。

災害時要配慮者訪問調査報告書

～災害時における要配慮者の課題と支援について～

印刷物登録番号
2018-19-2901

平成30年11月発行
編集・発行
新宿区福祉部地域福祉課
新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話03（5273）3517
FAX 03（3209）9948

新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。
本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。